

平成29年7月31日～8月6日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について
（平成29年度第14報）【2019年11月修正版】

1. この期間（7月31日～8月6日）の全国の暑さ指数（注1）の観測状況について

この期間の6都市（*）の日最高WBGTの平均値は、先週から引き続き過去5年間の平均値以上で、年間で最も高い時期を上回る状況が続きました。

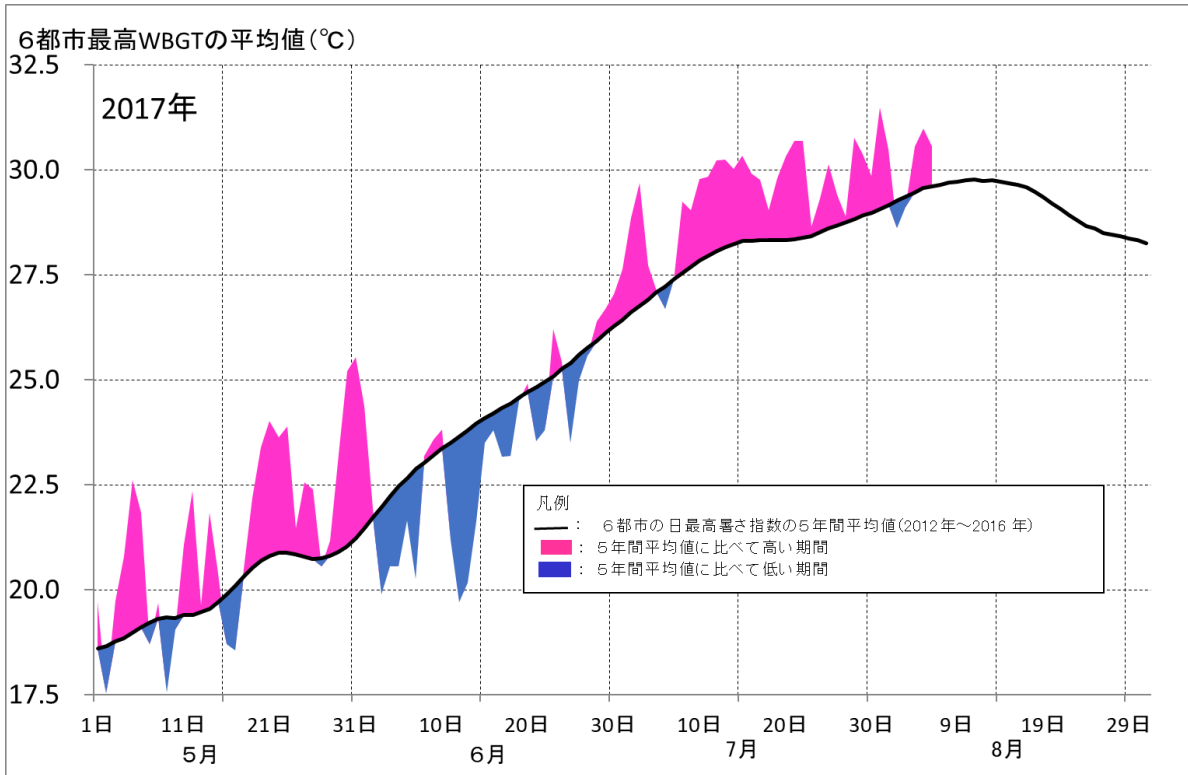


図1-a 全国の暑さの動向の過去5年間の平均との比較

(*) 6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市

表1-a 全国9都市の毎日の最高暑さ指数（7月31日～8月6日）

日	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島	6都市平均
31	22.4	28.8	30.1	32.1	31.9	31.2	30.6	33.0	32.9	31.5
1	24.9	24.6	28.1	29.9	30.9	31.0	30.3	32.7	32.8	30.5
2	25.4	24.1	27.1	24.2	29.4	29.8	29.0	32.2	33.0	28.6
3	23.7	21.4	27.9	27.8	28.3	29.5	30.2	31.0	31.2	29.1
4	23.3	22.8	29.6	28.8	30.0	32.9	29.7	32.4	31.0	30.6
5	24.9	26.7	30.3	30.2	31.1	31.0	30.8	32.5	28.6	31.0
6	26.5	28.6	30.6	32.3	30.9	32.0	29.1	28.5	26.6	30.6

表1-b 全国9都市の1週間（7月31日～8月6日）の暑さ指数超過時間数

超過時間数	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島
31°C以上	0	0	0	7	3	7	0	32	23
28°C以上	0	6	34	32	50	54	51	74	63
25°C以上	6	22	89	95	116	134	128	166	168

(注1) 9都市の暑さ指数は、環境省の黒球温度観測資料と気象庁の観測資料から推定した値です。
暑さ指数については参考資料をご覧ください。

2. 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

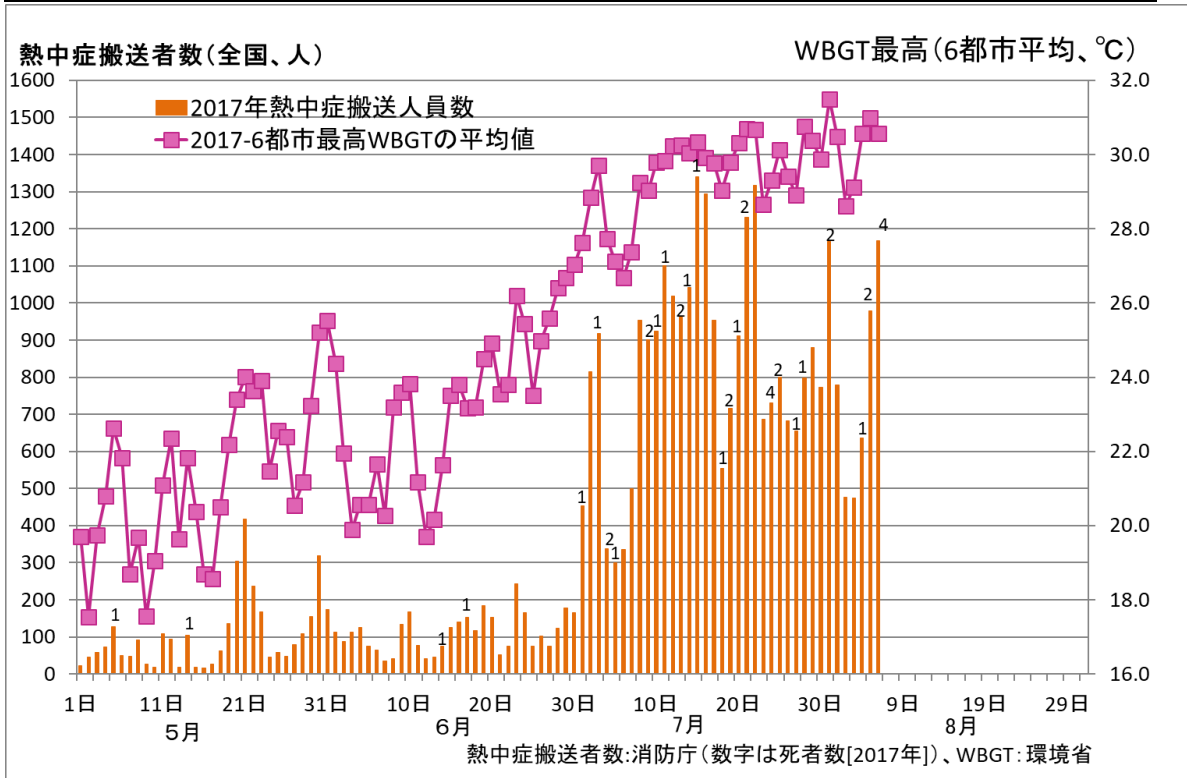


図2-a 6都市の日最高WBGTと熱中症搬送者数の推移

○この期間の6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、期間中ごろを除いて、ほぼ連日30°Cを超えました。1年で最も高い時期となりましたが、その期間の過去の5年間平均値を超える日が多い状況が続いています(図1-a参照)。全国9都市では札幌・仙台、新潟、広島を除いて31°Cを超えました(表1-a, b参照)。消防庁発表の速報では、全国的に暑さ指数が高く推移したこともあり、熱中症による救急搬送者数の総数は1週間で先週に続き5千人を超えました。死亡者数は9人と多くなっています。

3. 今後の見通しと注意点

○熱中症予防情報サイトによると、明後日(11日)にかけては、広い範囲でWBGTが28°Cを超え、31°Cを超える地点も多く予測されています。さらに、気象庁発表(8月9日11時時点)の週間天気予報によれば、「最高気温・最低気温ともに、北日本は平年より低く、かなり低い所もあるでしょう。東日本から沖縄・奄美にかけては、平年より低い所もありますが、平年並か平年より高い所が多く、平年よりかなり高くなる所もあるでしょう。」となっています。1年で最も気温が高い時期であり、東日本から西日本を中心に全国的に、熱中症に警戒が必要です。

○湿度が高く晴れた日には気温も高く蒸し暑くなります。引き続き、全国的に熱中症への厳重な警戒が必要です。不要不急の外出、作業を控えること、室内では無理せずエアコンを使うこと、こまめに水分補給や休息をとることなど、体調管理には十分注意してください。

(参考)

「暑さ指数」について

熱中症を引き起こす条件として「環境」は重要ですが、我が国の夏のように蒸し暑い状態では、気温だけでは暑さは評価できません。熱中症に関連する、気温、湿度、日射・輻射、風の要素を積極的に取り入れた指標として、暑さ指数(WBGT: Wet-bulb Globe Temperature: 湿球黒球温度)があり、特に高温環境の指標として労働や運動時の予防措置に用いられています。

暑さ指数を用いた指針としては、日本体育協会による「熱中症予防運動指針」日本気象学会による「日常生活における熱中症予防指針」があり、暑さ指数に応じて表1-1に示す注意事項が示されています。また、夏期には、全国約840地点の暑さ指数の実況値・実況推定値や予測値が「環境省熱中症予防情報サイト」(<http://www.wbgt.env.go.jp/>)で公開されています。また、市民マラソンにおける指針については、Hughson(カナダ)による指針が提案され、アメリカやカナダで用いられています。

暑さ指数について

● 日常生活に関する指針

温度基準 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31°C以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28~31°C※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28°C※)	中等度以上の生活 活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25°C未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する 危険性がある。

※ (28~31°C) 及び (25~28°C) については、それぞれ28°C以上31°C未満、25°C以上28°C未満を示します。
日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より